

〔6月15日／三位一体の主日〕

〔説教〕

今日は、愛の祭日です。「三位一体」とは、愛そのものだからです。
愛こそ、神のいのち、私たちのいのちだからです。私たちは今日、三位一体という愛に賛美と感謝をささげるために、こうして集まっています。愛といういのちを分かち合うために、共同体として、集まっています。

今日の福音で、主イエスは言っておられます。
「父が持っておられるものはすべて、わたしのものである。」
父である神が持っておられるものとは、何でしょうか。神は、たくさんものを持っておられるのでしょうか。
御父が持っておられるものは、愛だけです。愛が、持ちもののすべてです。
私たちは、つくられたものすべてが、神のものであることを信じています。それは、神がすべてのものを思い通りにされるということではありません。
神は、つくられたものすべてを愛しておられるということなのです。
神は、愛することしかおできになりません。

御子イエスも、同じ愛を持っておられます。御子の愛は、御父の愛と、まったく同じなのです。御父と御子は、一体なのです。一体となって、愛し続けられるのです。
御子も、愛することしかおできになりません。だから、十字架につけられても、愛し続けられたのです。この愛が変わることなく、今も続いているからこそ、今も、十字架につけられているのです。苦しんでいるいのちがある限り、一人でも苦しんでいる限り、十字架の上で、ともに苦しみ続けられるのです。教会に置かれている十字架は、御父と御子が一体となって、私たちを愛しておられることを告げ知らせているのです。

そして、聖霊は、私たちのうちに、私たち一人一人のうちに、こうして集まっている共同体のうちに生きておられます。聖霊は、御父と御子の「ものを受けて」おられます。
「神の愛」そのものを受けて、私たちに、神の愛を告げられます。御父と御子が一体となって、私たちを愛しておられることを悟らせてくださいます。愛が最も大切であることを思い起こさせてくださいます。そして、私たちが、愛することができるよう導いてくださいます。三位一体の神が愛するように愛したいと願うように、私たちを駆り立ててください。

もちろん、私たちの愛は、三位一体の愛と同じ愛ではありません。私たちの愛は、不完全です。私たちの不完全な愛ゆえに、この世界は、苦難に満ちたものとなっています。

皆が、本当に愛し合えたら、戦争も、あらゆる暴力も、貧困や環境破壊もなくなるのに。そう思いながら、苦しい毎日を過ごしています。いのちが傷つく出来事を知り、悲しみを感じています。無力な愛に、怒りさえ感じています。愛することなど無理だと、あきらめてしまうことがあります。愛することで傷つくことを恐れて、愛から逃げてしまうことがあります。

しかし、私たちは、愛することなしに、人間として生きていくことはできません。不完全な愛は、たとえ不完全でも、間違いなく愛です。むしろ、不完全だからこそ、愛であると言えます。自分の愛は不完全だと認めるからこそ、愛であり続けるとさえ言えます。自分の愛が完全だと思う時、必ずと言って良いほど、相手の愛が不完全に思えてきます。自分の愛を完全なものにしようとして、愛の範囲を狭くしてしまうことがあります。自分の気に入った人だけを大切に、他の人のことには無関心になってしまうことがあります。

だから、愛は不完全で良いのではないのでしょうか。自分の愛は不完全だと認め、愛を深め、広げていきたいと望む。これこそ、三位一体の神からいただいている愛、開かれた愛ではないのでしょうか。愛を閉ざすことで、苦難から逃れるのではなく、苦しくても、開かれた、不完全な愛を生きていく。これこそ、愛ではないのでしょうか。

父と子と聖霊は、完全な愛で、愛し合っておられます。

しかし、三位一体の愛は、完結した、閉ざされた愛ではありません。すべての人に、すべてのいのちに向けられている、開かれた愛です。

すべてのいのちが、この愛に応えて、真に喜ぶ時、神の愛は完成します。

私たちの愛も、三位一体の愛に包まれ、満たされて、完成します。これこそ、私たちの希望です。そして、この「希望はわたしたちを欺くことはありません。」

三位一体という愛を信じて、開かれた愛の道を、ともに歩んでいきましょう。

希望の巡礼者として、歩んでいきましょう。